

Spire_M

音楽のおくりもの Information

小学校版
通巻第29号

p.2 **創作活動の意義と指導のポイント**

— 昭和40年代の岐阜県古川小学校の「ふしづくりの教育」に着目して —
広島大学教授 三村 真弓



p.6 **指導書は“でっかい宝船！”**

大阪音楽大学教授 橋本 龍雄

p.12 平成27年版 小学音楽「音楽のおくりもの」
指導書のご紹介

創作活動の意義と指導のポイント

—昭和 40 年代の岐阜県古川小学校の「ふしづくりの教育」に着目して—

広島大学教授 三村 真弓

1 はじめに

昨今の教育界では、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくために、個々の児童生徒の自己指導能力の育成がめざされています。そのためには、日々の教育活動において、①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること、の3点に留意することが求められています¹⁾。つまり、音楽科においても、この3点が実現するような授業を構成することが必要とされているのです。この3点は、桜井茂男(1994)が学習意欲を喚起するものとして提示している、有能感、他者受容感、自己決定感²⁾とも関連しています。ただしここで重要なのは、あくまでもこれらを音楽科特有のものとして置き換え、具体的にどういうことを指しているのかを見極めることです。そして、音楽科にしかできない方法によってこれを実現した時、音楽科は人間形成に寄与したといえるでしょう。

音楽科には、表現(歌唱、器楽、創作)と鑑賞の領域があります。言語活動の充実をめざして、鑑賞の授業で、曲の背景や音楽の諸要素やしぐみ等を根拠として話し合ったりすることがよくあります。これによって、上記3点のうち、②共感的な人間関係を育成すること、が達成できるかもしれません。しかしそれは、言語コミュニケーションを通じた結果であり、音楽科にしかできない活動とはいえません。言語活動を充実させていく方向で授業を進めていくと、音楽科の授業ではなく、国語科の授業となってしまう。つまり、音楽科の本質から離れてしまう危険性があるのです。音楽科特有のものに置き換えるということは、常に音楽活動を通じて、すなわち音楽を媒介として授業を行うなかで、上記3点の実現をめざすということを意味します。

それでは、音楽科特有の活動を通して、上記3点が具体的にどのようにして達成され得るのでしょうか。歌唱活動や器楽活動は、楽譜上の情報(強弱記号、発想記号、音楽の諸要素、しぐみ等)や、曲の背景(歌詞の意味、作者の思い、様式、ジャンル等)をもとに、教材を忠実に再表現することが一般的には求められます。そこに、③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること、という要素を見いだすことは難しいのです。一方創作活動は、③を最も実現しやすい活動といえるでしょう。そこで本稿では、創作活動に焦点を当てることにします。具体的には、昭和40年代に行われた岐阜県古川小学校の「ふしづくりの教育」を取り上げ、創作活動がどのように人間形成に寄与したのかを明らかにし、そのうえで、効果的な創作指導のポイントを示したいと思います。

2 古川小学校の「ふしづくりの教育」

(1) 「ふしづくりの教育」の概要と理念

戦後の優れた音楽科教育の1つとして、昭和40年代に岐阜県古川小学校で行われた「ふしづくりの教育」が挙げられます。昭和41年に岐阜県の研究指定校として始められた「ふしづくりの教育」は、研究指定が終わった後も継続され、さらに進化を遂げました。昭和40年代後半には、全国から多数の参観者が訪れるようになり、また各地から「ふしづくりの教育」を学びに、内地留学の教師も多く集まりました。

「ふしづくりの教育」は、中家一郎校長の教育方針のもと、人間尊重を基盤として「ひとり歩きのできる音楽教育」をめざしたものです。「ふしづくりの教育」では、音楽の諸要素を基盤として捉え、身体表現、身体反応、鑑賞、歌唱、器楽、創作、記譜などの幅広い学習活動を一体的に進めながら、拍に反応する力、模唱力、模奏力、再現力、即興力、変奏能力、読譜力、ことばとふしの結びつけ方等の基本的な能力を身につけさせることをねらいとしています³⁾。つまり、単なる創作活動ではないのです。音楽的感覚、聴取力等の音楽能力の基礎となるものをまず身につけさせ、次に演奏技能、記譜・読譜力等の音楽活動の基本となるものを獲得させて、そのうえで、表現力、即興・創作力、鑑賞能力を育成していく、総合的な音楽教育法といえます。ふしづくりは、その手段、一過程にしかすぎません。ただ、そのふしづくりの活動自体が人間形成の重要な役割を担っているのです。これに関しては後述します。

小学校6年間に必要な音楽の基本的な諸要素や諸能力を、楽しい学習活動を通して自然に身につけていけるように、音楽主任の山崎俊宏を中心として、全教員が試行錯誤をしながら系統的につくりあげたのが、30段階102のステップで構成された「ふしづくり一本道」のカリキュラムです。各段階では指導の目的が示され、段階に沿って設定された複数のステップでは、目的を達成するための学習活動や学習内容が掲げられています。

古川小学校では、この「ふしづくり一本道」のカリキュラムに沿って、クラス担任全員が音楽の授業をしました。子どもを最もよく理解している担任がすべての教科を担当するべきであるという中家校長の方針でした。教師が多くしゃべる授業はだめな授業であるという校長の考えのもと、音楽科授業は、すべて子ども主体で行われ、教師の発言する時間が少なかったというのも、古川小学校の大きな特徴です。これを可能にしたのは、以下の理由によります。この「ふしづくり一本道」のカリキュラムは、誰にでも教えることのできる指導法としてつくられたものであり、音楽に堪能でない教師でも、子どもと共に「ふしづくり一本道」を学習していけば、有能な教師になることができるとされています。音楽主任だった山崎は、当時を振り返って、古川小学校で「ふしづくりの教育」が成功し、長年にわたって継続できたのは、音楽専科教員がいなかったので、教員が主導する音楽の授業とはなり得なかったこと、音楽が苦手な教員もとにかく子どもと共に学んでいこうとする姿勢があったこと、子どもの作品に関して「愚作の多作」を容認したこと、であったと述べています。

(2) 「ふしづくりの教育」の特徴と人間教育としての意義

45分の音楽科授業は、ふしづくりの活動と、通常の歌唱・器楽・鑑賞の活動の二本立てで構成されています。「ふしづくり一本道」のカリキュラムの最初の段階では、音楽活動の基礎的な能力を育むために、基本拍にのる、リズム感を養う、音楽的語彙を増やす等の活動が数多く行われます。その段階を経て、3音のふしづくり、リズム変奏、合う音さがし、7音のふしづくり、等の創作活動へと発展していくのです。授業の最初では、既習曲が何曲か歌われますが、子どもが交代で指揮をし、伴奏し、それに合わせて合唱や合奏が行われます。指示もすべて子どもが行います。ふしづくりでは、個人作品をつくる→グループ内で発表して、代表のふしを選ぶ→それに副旋律や伴奏をつけてグループ作品をつくる→グループごとに作品を発表する→クラス全体で本時の代表作となるグループ作品を選び、皆で合唱・合奏する、という活動が行われました。古川小学校で実際に「ふしづくりの教育」を受けた卒業生たちは、当時の様子を、「生活のなかに常に音楽があった。毎日、鍵盤ハーモニカや笛を吹いていた。」「本当に楽しい音楽の授業だった。」「今のようにいじめ問題とかは全くなかった。みんな仲が良かった。」「自分のつくったふしは、今でもすべて覚えている。」などと回想しています。

以上のような「ふしづくりの教育」の特徴として、①子どもの自主性を尊重する、②子どもたち一人一人に歌唱・演奏・発言の機会を保障する、③グループ活動を重視する、などが挙げられます。①によって、学習意欲が向上し、「自ら気づく」「自ら解決する」ことが可能になりました。②によって、独唱・独奏や個人発言が教師や友だちに受け入れられ、自尊感情を高めることができました。③によって、言

葉や音楽によるコミュニケーション力が育成され、協働による達成感や感動を得ることができました。これらは、音楽科特有の自己存在感・有能感、他者受容感、自己決定感であるといえます。古川小学校では、「ふしづくりの教育」の実践を通して、子どもたちの社会的な自己実現が図られ、自己指導能力が育成されていたといえます。つまり、前述した、現代の教育界で求められている「一人一人の児童生徒の個性の伸長」「社会的な資質や能力・態度の育成」「社会的に自己実現ができるような資質・態度」「児童生徒の自己指導能力の育成」等は、昭和40年代の古川小学校の「ふしづくりの教育」ですでに達成されていたといえるでしょう。以上のことから、古川小学校の「ふしづくりの教育」は、優れた音楽科教育にとどまらず、人間教育でもあったことがわかります。

3 「ふしづくりの教育」からみる創作指導のポイント

「創作は、模倣の変容である」という言葉があるように、何もないところから作品は生まれてきません。子どもの身体のなかに音や音楽があつてこそ、音楽づくりは可能となるのです。つまり、創作活動の基礎は、音楽的情報をいかに子どもにたくさん蓄積するかということになります。

指導のポイントは、①遊びの要素を取り入れた活動であること、そして常に拍の流れにのること、②感覚（音楽的感覚・身体感覚）を優先すること、③学習の個別化とグループ活動を組み合わせること、④模唱・模奏を多用すること、などです。

①に関して、「タンタンタンうん」の基本拍にのって（手拍子をしたり、打楽器で拍を打ったり）、応答唱（教員と子ども）、リレー唱（子ども同士）を行います。わらべうたの音組成（ラソラ、ミソラ、ラソミソラ、ミソラソラ等）が歌いやすいです。慣れたら、3音から7音のふしづくりに移行します。

なきまね遊び：教員「こいぬ・」→子ども「ワンワンワン・」→教員「ひつじ・」→
子ども「メエメエメエ・」

②に関して、低学年では遊びを中心にした身体表現から入り、高学年にいたるまで感覚を優先します。音楽を聴いて、それに合わせて身体表現や身体反応をしたり、手拍子を打ったり、指揮をしたりすることによって、音の流れを感覚的に身体で受けとめることができるようになります。そして、聴いて→吹いて（模奏）→歌って（リズム唱、階名唱、歌唱）→書く（記譜）という順序で学習を進めていきます。

③に関して、一人学習、ペア学習、グループ学習等を取り入れることによって、子どもの学習活動の量を多くし、創作活動を活発にします。まず、一人でふしをつくり、ペアになってふしを繋いだり、ふしをリズム変奏したりします。楽譜は用いません。即興でつくりますが、それを記憶し、何度でも正確に再生できることが大事です。相手のふしを聴いて覚えてそれを変奏するというのも聴取力や記憶力を育成するのに効果があります。また、4人1組となって、続くふし→続くふし→続くふし→終わるふしというふうに即興的にリレー奏をすることによって、旋律の終止感を養うこともできます。グループ学習では、一人でふしをつくり、グループのなかで発表し合って代表のふしを決めたら、それに副旋律をつけたり、楽器でオブリガートをつけたり、オスティナートのような伴奏をつけたりします。こうした編曲は、既成の楽曲に対しても応用でき、前奏・間奏をつけたり、歌唱教材を合奏形態にすることなどによって主体性を育み、歌唱活動においても子どもの学習意欲を高めることができます。

④に関して、模唱・模奏は、音高を聴き分ける能力とピッチマッチングの能力を育て、音楽を記憶する力を育成します。またこれによって、たくさんの音楽的情報を蓄積することができるといえます。

- 【引用・参考文献】 1) 文部科学省 (2010)『生徒指導提要』文部科学省, p.5
2) 桜井茂男 (1994)『学習意欲の心理学』誠信書房, p.19
3) 岐阜県古川小学校 (1975)『ふしづくりの教育—主体的で楽しい音楽教育の実現をめざして十年—』明治図書, pp.7-8

ふしづくり指導計画一覧表

段階	指導項目	具体項目	低	中	高	段階	指導項目	具体項目	低	中	高		
1	リズムにのったことばあそび	1 名前よび	2	1	1	15	2 拍単位のふしづくりとリズム記譜	54 すきなふしの模奏と合う音づけ	2	2	1		
		2 動物、花、果物、物の名前よび	2					55 ふしとふしに変奏し、リズム記譜	8	6	2		
		3 鳴き声あそび	1					56 ふしとふしを使ってふしをかりリズム記譜	4	3	1		
		4 リズムあそび	2	1	1			合計	4	3	1		
		合計	7	2	2		合計	8	6	5	2		
2	歌問答とリレー	5 問答あそび	1	1		16	リズム変奏のまとめと記譜	57 3音のふしを4種類に変奏	2	1	1		
		6 ことばのリレーあそび	1					58 つくったふしのリズム変奏と記譜	3	2	1		
		7 鳴きまねっこあそび	1	1	1			59 ♪♪♪ふし♪のふしを使ってリレーカードあそび	5	2	2		
		8 鳴き声あてっこあそび	1					60 合計	2	1	1		
		9 韻とりあそび	2	1			合計	12	6	5			
		10 数あてあそび	1			17	7音のまとまったふしづくりと記譜	61 「おリレー」でまとめたふしづくり（基本リズム）	6	5	2		
		11 お店やさんあそび	1	1	1			62 「7音のふしを」のリズムで記譜	4	3	2		
		12 あそびましょ	1					63 ふしづくりと記譜	8	4	2		
		13 しりとりあそび	2	1	1			64 作ったふしに「合う音」リズム伴奏づけ	8	5	2		
		14 物語のふしづけあそび	4	3	2		合計	26	17	8			
				合計	15	7	2		合計	8	7	4	
		3	原形リズムのリズム唱	15 ことばのリズム唱あそび	2	1		18	ふしの旋律を味わう	65 まとまったふしづくり	8	7	4
				16 タンタンタンのことばあてっこ	2	1				66 3拍子のまとまったふしづくり	5	4	3
				17 3字のことばでふしのリレー	2	1	1			67 つくったふしに高音で保続音をつける	2	1	6
18 リズム書きっこ	3			1	1	合計	15			12	13		
		合計	9	4	2		合計	2	2				
4	リズム分割 ①	19 かけ足リズムのことばあそび	2	1	1	19	ふしのリズム変奏	68 7音のふしを4種類のリズムで変奏、リズム唱	3	2			
		20 かけ足リズムでことばのリレー	2	1	1			69 ふしをつくりすきなリズムで部分変奏	3	2			
		21 かけ足リズムの書きっこ	2	1	1			70 すきな変奏えらびと模唱奏	3	2			
		合計	6	3	2		合計	8	6				
5	リズム分割 ②	22 スキップリズムのことばあそび	2	1	1	20	拍子変奏	71 つくったふしを3拍子に変奏	4	3			
		23 スキップリズムでことばのリレー	2	1	1			72 つくったふしを6拍子に変奏	3	2			
		24 スキップリズムの書きっこ	2	1	1			合計	7	5			
		合計	6	3	2		合計	7	5				
6	リズムのまとめ (1拍単位)	25 リズムあてっこあそび	2	1	1	21	自由なリズムでリレーと問答唱	73 自由なリズムでリレーや問答唱奏	8	4			
		26 カードあてあそび	2	1	1			74 すきなふしの模唱奏	4	2			
		27 リズムのうたの書きっこあそび	2	1	1			75 和音伴奏、分散和音づけ	7	7			
		28 3拍子のリレーとリズム書きっこあそび	3	2	1			合計	19	13			
		合計	9	5	2		合計	3	2				
7	模唱奏	29 まねぶきあそび	6	3	2	22	自由なリズムのふしの記譜	76 7音のふしのリズム記譜	3	2			
		30 リズムかえっこ	4	2	1			77 2人の問答唱奏の記譜	3	2			
		31 2人組のリズムかえっこ	4	2	1			78 ひとりてふしを作って記譜	4	2			
		32 3拍子のまねぶきとリズムかえっこ	3	2	1			合計	10	6			
		33 すきなふしさがし	6	3	2				合計	6	3		
		合計	23	12	7		合計	6	3				
8	ふしの問答唱とリレー	34 ふしのリレー	5	3	1	23	音楽ことばのリズム変奏と記譜	79 3音のふしを♪、♫に変奏して5線に記譜	6	3			
		35 2人組の問答あそび	3	2	1			80 3音のふしを♪、♫に変奏して5線に記譜	6	3			
		36 すきなふしさがし	3	2	1			81 自由なリズムで作って記譜	10	6			
		37 合う「ふし」あてっこ	3	2	1			合計	22	12			
		合計	17	11	5		合計	11	5				
9	階名唱	39 ドレミあてっこ	6	3	2	24	フレーズの記譜	82 自由なリズムの7音のふしを演奏して記譜	11	5			
		40 ドレミとリズムかえっこ	3	2	3			83 自由なリズムでふしを作って記譜	11	5			
		合計	9	5	5		合計	22	10				
10	続くふし、終わるふし	41 続くふしと終わるふし	3	2	1	25	3拍子のふしづくりと記譜	84 3拍子のふしづくりと記譜	7	3			
		42 終わるふしづくり	5	3				85 ふしづくりと伴奏	6	3			
		43 合う音づけ	5	3	1			合計	13	6			
		合計	13	8	2		合計	5	3				
11	3音のふしの記譜	44 階名唱と記譜	5	3	1	26	6拍子のふしづくりと記譜	86 6拍子のふしづくりと記譜	4	3			
		45 ふしづくりと記譜	8	4	1			87 ふしづくりと伴奏	8	6			
		46 3音のふしを♪のリズムで記譜	5	3	2			合計	12	9			
		合計	18	10	4		合計	3	2				
12	7音のフレーズへの移行と模唱奏	47 3音の模唱、終わるふしを短編でフレーズづくりに	1	1	1	27	短調のふしづくり	88 短調の旋律の模唱奏	3	2			
		48 3音と7音のふしづくり	2	1	1			89 長調のふしを作って同主短調づくりに	3	2			
		49 7音の模唱奏とリレー	10	6	1			90 短調のふしづくりに	6	3			
		合計	13	8	3		合計	10	7				
13	3音のふしのリズム変奏	50 リズム変奏	3	2	1	28	日旋のふしづくり	92 日本旋法の旋律の模唱奏	4	2			
		51 2人組のリズム変奏	3	2	1			93 陽旋のふしづくりと歌詞づけ	4	2			
		合計	6	4	2		合計	8	5				
14	3音のふしのリレー	52 ふしとふしを使ったリレー	3	2	1	29	ふしの歌詞づけ 歌詞のふしづけ	94 すきなふしに伴奏づけ	8	6			
		53 つくったふしの再現とリズム唱	3	2	1			95 原旋のふしづくりに歌詞づけ	6	4			
			2	2				96 すきなふしに伴奏づけ	8	5			
		合計	6	4	2		合計	30	18				
15	2 拍単位のふしづくりとリズム記譜	54 すきなふしの模奏と合う音づけ	2	2	1	30	曲の完結	102 深まりのあるふしづくりに	35	24			
		合計	8	6	5			合計	35	28			

ふしづくり児童の能力に応じて進める。

指導書は “でっかい宝船！”



大阪音楽大学教授 橋本 龍雄



新学期から新しい教科書になると連動して、「教師用指導書」の内容やラインナップも“新しく”なりました。指導書といえば、指導案などが載っている本というイメージがありますが、CDや伴奏譜も含めて、授業前の教材研究のための資料と考えてみてはいかがでしょうか。今後の教材研究に深さと幅が生まれると思います（新しい指導書のラインナップは本書P.12を参照）。

今回から新しく指導書にDVDが加わった！鑑賞はCDとDVDを見て・聴いて・考える。そしてからだの内に入ったものを統合して表現する。鑑賞と表現の相互乗り入れによる相乗効果が、これからの授業の最重点課題のようです。

授業参観や研究授業など、授業公開が近づくとき心強い玉手箱…指導書「研究編」。実際に開くページは指導計画や指導案例が圧倒的に多いようですが、指導書の本当のスゴさはそれだけではありません。別のページにも貴重な宝が詰まっているのに…読まないもったいないです！

指導書はノウハウ本？授業の虎の巻？音楽の不得手な人が見るもの…？いいえ、そんなことは決してありません。指導書は、今の自分の知識と実践力の不十分さを気づかせてくれます。子どもの実態（様子）をもっと深く見つめないといけないことを気づかせてくれます。教師としての今の自分をはかる物差しと捉えられるかもしれません。

私には、大切にしている言葉があります。22年間の公立小学校の現場で教えられた、子どもと接する時に大切な3つの柱です。

- ①「どんな時も子どもを見て、子どもに学べ」…これが一番大事。
- ②「自分を鍛える参考書を持って」…私にとってはそれが指導書です。
- ③「先輩の実践に学べ」…子どもにどう接しているのか、見るべき所はそこ。

財宝満載の船に乗り込み、何をゲットし、どう消化するか。いつも子どもの方を見て、自分の実践力をどうつけるか。今から自分を鍛える参考書として使える、「教師用指導書」の中身をご紹介します。

今回は特に「指導用DVD」と「研究編」および「指導編」のスゴイ内容をクローズアップしたいと思います。今日から各々の項目が先生方の「宝」になることを願って。

1. 指導用DVD こんなのが欲しかった！

指導用DVDのサンプル盤を見た途端、「これはすごい」と思いました。授業で使いたい、子どもに見せたい！と思わずにはいられませんでした。本当によくできた映像です。映像収録にあたり、企画段階から、編集者とディレクター、カメラクルー、照明担当、音響担当で「教科書ならではの視点と使い勝手の良さ」をコンセプトに詳細な打ち合わせがあったそうです。

(1) 教科書の写真と同じ演奏家が登場

「写真と同じ人!」「楽器もいっしょ!」この映像ひとつで子どもの興味関心をわしづかみです。3年の「こんにちはリコーダー」(教科書P.17)の写真と同じ演奏家たちがDVDに出演。しかも使っている楽器も全く同じものです。そこで、このような使い方はどうでしょうか。

1. 教科書 P.17 の写真を見ながら、「いつも何度でも」を鑑賞CDで聴き、ソプラノリコーダーの音というものを知る。

2. 教科書の写真の演奏家(金子健治)の演奏をDVDで視聴する。

3. 教科書の「うそどり」の写真と共に解説を読み、DVDを視聴。

6. ソプラニーノで奏される「森ひばり」を教科書を見ながらCDで聴く。

5. 同じ曲をDVDで視聴。

4. 二人の奏者が音を合わせるソプラノ二重奏「クラリネットをこわしちゃった」を教科書の写真を見ながらCDで聴く。

7. DVDを視聴。

8. ソプラノ～アルト～テノール～バス・リコーダーの合奏(コンサート)を「大きな古時計」の写真を見ながらCDで聴く。

9. DVDで視聴。



このように教科書の写真を見ながらCDを聴き、次に写真と同じ演奏家の演奏をDVDで視聴することによって、リコーダーの演奏と音の響きをより鮮明につかむことができます。



教科書の登場人物によるDVDの演奏映像は、子どもにとって大変印象深い経験の一つとなること間違いなしです。

(2) 教科書と同じカット割り

5年「ピアノ五重奏曲『ます』」の指導内容と、その活動内容は「変奏曲を楽しもう」です。曲の主題(テーマ)が少しずつ形を変えながらバイオリンやピアノ、チェロ等の楽器に受け継がれていく演奏のおもしろさを楽しみます。映像は教科書に載っていると同様のカット割りです。楽器演奏の場面が映ります。子どもに見せてやりたい演奏中の指や弓の動きがハッキリわかる角度で映ります。また、子

教科書5年 P.52



もに感じ取ってほしい楽器どうしのかかわり合いも、演奏者の目の動き等のアイコンタクトや息を合わせようとする空気感が「見てわかり」ます。これは従来の鑑賞CDを聴くだけでは子どもに伝えられなかった学習内容なのです。

(3) 百間は一見にしかず。見てまねる身ぶり・手遊び

教師の百回の説明よりもDVDを見てまねるに限ります。1年の《おんがくに あわせて》には、「ひらいた ひらいた」では輪になっての遊びや手遊びの映像があります。子どもが「おちゃらか」や「なべ なべ」, 「げんこつやまの たぬきさん」を歌いながら行う“あそび”は、DVDを見れば一目瞭然です。映像の子どもの手や体の動きをまねることができるからです。

1年教科書P.26～27《どれみに あわせて からだを うごかそう》も、公園の木々豊かな小高い丘で「ドレミの歌」を歌いながら〈どれみの たいそう〉をしている映像といっしょにやると、簡単にスムーズに活動できます。DVDがあればこそ、の利用方法です。

教科書1年
P.13



(4) めったに見られない“貴重映像”収録！

市販のDVDでは決して見ることのできない映像も収録されています。

- ① 6年《演奏のみりょく》(教科書P.18)には、20世紀の大指揮者ヘルベルト・フォン・カラヤンとレナード・バーンスタインの指揮の様子がクローズアップで映っています。曲目はベートーベン作曲、交響曲第5番の第1楽章。いわゆるダダダダの「運命」です。

画面いっぱいの横顔から正面、手の動きや身ぶり、全身。指揮者から発せられる強いオーラとともに演奏の場の張りつめた空気が画面から伝わってきます。指揮の映像そのものが芸術作品だと言っても過言ではない迫力映像です。指揮は「手を動かしてるだけの簡単にできそうな仕事」では決してないことが、如実にわかります。

- ② 6年の武満 徹作曲「雨の樹」(P.47)の演奏は、楽譜に記されている照明効果が印象的な映像です。視覚の効果も音楽表現の一つだと十分に納得できます。

- ③ (その1) 2年の《ようすを音楽で》(P.45)の「出発」(プロコフィエフ作曲)は、オーケストラ演奏での曲のフレーズが変わる毎に、旋律を演奏する楽器の画面に切り替わります。フレーズの頭からスッと切り替わる様は見事。これが映像制作クルーのチカラなんだ。

(その2) 同様の画面切り替わりの見事さは、4年の《音楽のききどころ》(P.48)「ノルウェー舞曲 第2番」(グリーグ作曲)でも実現しています。またこの曲のオーケストラ演奏映像自体がめずらしく、鑑賞教材としての企画でないと思えない映像です。

- ④ 2年「日本の たいこ」(P.38)では、お祭りの沿道を行く直径3.3mの「津軽じょっぱり太鼓」の演奏を様々な角度から映し出します。出場する太鼓1万個を越える「さんさ踊り」の太鼓パレード、能登の海岸で繰り広げられる「御陣乗太鼓」の鬼気迫る迫力映像など、お祭りの場の空気感も映像と一緒に伝わってきます。教室の子どもらは、どの太鼓が気に入るでしょうか。あの子は太鼓に乗って叩く「じょっぱり太鼓」だろうな…とか。

2. 研究編 もう一つのすごさ！

研究編のすごさは、第一に音楽専門の事典をわざわざ調べなくても、授業を前にした教材研究は、研究編1冊で必要十分の知識を得られるということです。

第二には、音楽教育をより深く考えるための「コラム」がすごく充実していることです。

これらの音楽の「知識」と「コラム」に焦点を当てて紹介しましょう。きっとガッテンしてもらえらると思います。

(1) 「楽典」…元々の意味をおさえる

35年以上も前の話ですが、2年生の子どもからこんな質問を受けました。「二分音符は2拍やのに、四分音符はなんで1拍なの？」その子どもが思ったのは、二分音符と2拍の「2」が対応しているのに、四分音符と1拍は数字では対応していない。四分音符は4拍ならわかるという論理なのです。私は答えられませんでした。音符の呼び名とその意味に疑問を持ったこともなく、「1」=1拍」と頭ごなしに覚えていただけ。音符の「元々の意味」は知りませんでした。当時の指導書には元々の意味の記載なし。市立図書館へ行って音楽大事典を調べたら、あった！

この経験がきっかけで、楽典の元々の意味を知ってる人は意外に少ないのではないかと考えました。それならむしろ指導書には、楽典の元々の意味を載せるべきだと考えるようになりました。

その後、縁あって現在の指導書「研究編」の「楽典」のページは全項目、私が書くことになりました。どの学年にも、本の最後の方に、「全学年分の楽典」を掲載していますので、担任の学年にかかわらず、全学年の楽典が参照できます。もちろん、元々の意味から書いてあります。ご覧あれ！

研究編1年
P.147

1. ♩ ♪ ♫ 音符

(1) 音符 (note / ノート) は、音が鳴っている長さを表わすが、五線譜等に書かれた時は、その音の高さも同時に示す。

一トの音をと部分の長さだけ示す。

(2) 音の長さは、何を基準にするかで決まる。

① ♩ 全音符を1 (基準) と考える場合



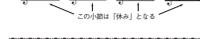
全音符は英語で Whole-note という。
♪ のよゝで二分音符 (half-note)
♫ のよゝで四分音符 (quarter-note)

同じ考え方でつけられた。

例) ♪…4分音符 (quarter-rest)

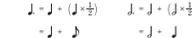
② (重要) 一つの小節に全音符が一つだけの場合、その曲が何拍子であっても、その小節は全部音を止さない。

(例)



3. ♩ ♪ ♫ 付点

付点がついた音符又は休符の長さの、よゝだけ延長する。



(2) 「打楽器いろいろ」…奏法と指導法を掲載！

「楽典」と同様に、指導書の最後の方に、すず・タンブリン・トライアングル…～…ボンゴ・コンガ等の打楽器20種類が一括して掲載されています。非常にわかりやすい言葉と写真を対応させながら、その楽器の扱い方をくまなく書いてあります。そして、どの学年の担任にもわかりやすく、子どもへの指導の方法が書かれています。「楽器の持ち方」、「音の出し方・止め方」、「記譜（楽譜の書き方）と奏法」、「よい音を出すコツと指導法」、等々。

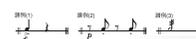
多くの人は子どもの頃、打楽器を触った経験があり、身近に感じているけれど、「よい音を出すコツと指導法」は意外と未知の世界ではないでしょうか。誰でも簡単に音は出せますが、「よい音」ってどんな音？ましてやそのコツを子どもに伝えるには？

器楽合奏をやろうとする時、「打楽器はリズム

○持ち方

手の穴があいているあたりに、親指で皮を押さえずながら持ちます。楽器を地面と平行にせず、斜めに構えるとジングルの切れ味がよくなります。

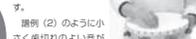
○記譜と奏法



基本的には写真のように指先を使って打ちますが、例(1)のように大きな音を一度だけ出す場合は、拳又はのひら全体で、打面の中央を打つと強い音が得られます。



例(2)のように小さく歯切れのよい音が必要な場合は、指先を使って皮のしを打ちます。



例(4)は打ったあと、休符で音を止めます。例(5)は、打ったまま止しません。例(6)は、+はクロスズ（音を止めたまま

きのの粗かいロールが演奏でき、p-pの音程に鳴っています。

◆トライアングル

○持ち方

ひもをさし指にかけて楽器をつるし、もう一方の手でピーター（トライアングル用ばち）を持ちます。難しいリズムを演奏するときは、クリップつきのもので楽器をスタンドなどに固定し、両手でピーターを使うことができます。

○音の出し方・止め方

音を出すときは、ピーターの先の角を使い、手首をやわらかく使って打ちます。音を止めるときは、楽器を持った手を握ります。

○記譜と奏法



例(4)は打ったあと、休符で音を止めます。例(5)は、打ったまま止しません。例(6)は、+はクロスズ（音を止めたまま

研究編1年
P.138

が一番大事だから、リズム感のある子に任せたい」と思ったことはありませんか？ 打楽器を扱う人が一番大事にしていることは、「いい音」を鳴らすことだそうです。音を出すのは誰でもできることなのに、「いい音」となると、実は一番難しいことなんです。入りやすいけれど奥が深いのが打楽器の世界。小学校の間にこのことを体験的に学習することが、とても大切ではないかと私は思っています。

(3) 鑑賞資料やコラム…必要十分な音楽の知識、充実！

主要な項目をピックアップしてみました。下の欄をご覧ください。小学校の音楽授業に関連して、何故こんなに多くの項目が取り上げられているのでしょうか。「小学校だから簡単で、中学高校だから詳しく」というのは、子ども・生徒の立場に立っての話だと思うのです。教える教師の立場に立って考えると、教材研究をするに当たって、小学校の教師なら項目の簡単な部分を知っているだけでいいのか、と自分に問いなおしてみました。重箱の隅をつつくような知識が必要なのではなく、教師として知っておくべき初めから最後まで一本筋の通った知識が、教材研究には必要なのではないかと思いました。このことは音楽を他の教科に置き換えて考えてみると納得できるのではないのでしょうか。

弦楽器・オルガン（西洋の楽器）の歴史、オーケストラ・室内楽・吹奏楽・ビッグバンド（演奏形態）の歴史、24の日本各地の祭りの解説、日本の民謡49種類の解説、ディズニー映画と音楽の解説、ミュージカルの歴史と作品解説、ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」の解説、リコーダーの歴史から奏法・指導法まで、日本の伝統音楽の楽器（箏・尺八・三味線・筆箏等）の歴史と奏法、器楽合奏の楽器の音域と記譜法、世界の諸民族の音楽10種類の解説、和太鼓の指導法、デキシーランド・ジャズとは、「パフ」の原語と物語、雅楽の歴史、サンバ・フラメンコ・アルゼンチンタンゴの音楽、アフリカのリズム解説、20種類の打楽器の奏法と取り扱い方、アラ ホーンパイプ解説、インターロッキング・循環コード・ドローンの意味と解説、日本の伝統芸能（狂言、歌舞伎、文楽）の歴史と作品、手話の基本的な知識…等々。

「音楽を教えること」と「音楽で教えること」とは似て非なるもの。音楽を歌に置き換えると→「歌を教える」「歌で教える」。後者の方が濃くて深みがあるように感じます。人間的なというか、生きるチカラというか、生活することや生きることの本質のようなものを、歌を通して、音楽を通して子どもに教えたい・伝えたいというようなニュアンスでしょうか。5年「子守歌、その心を学ぶ」には、人が生きる（生活する）ということと音楽との関係を考えるヒントのようなものがコラムから読み取れます。

また、3年「ディズニー映画と音楽」にはウォルト・ディズニーがいかにしてキャラクターと音楽を世界中に広めていったのかが書かれています。テーマ・パーク第1号のディズニーランドと共に、テレビ、映画、舞台、アトラクション等々を通じて人気に大きな役割を担ったのが「音楽」だったという。そういえば、「星に願いを」「ハイ・ホー」「イツ・ア・スモール・ワールド」「ミッキー・マウス・マーチ」は60歳になってしまった僕も、20歳の学生も、10歳の孫も、年代を問わずみんな知っている！ なんかこわい…。

1年『フルーツケーキ』の楽しい扱いには、教材の楽しみ方の様々な方法が紹介されています。「交互唱や替え歌で楽しむ」、「体を使った表現で楽しむ」、「楽器で楽しむ」方

📖 「フルーツケーキ」の楽しい扱い

歌詞の内容や3拍子の特徴を生かして、歌唱表現や体の動き、器楽演奏などいろいろな学習を工夫しましょう。

●交互唱や替え歌で楽しむ

1. 交互唱を工夫する

「みちこ(みちこ)ばなな(ばなな)さくらんぼ(さくらんぼ)」の部分で交互唱するとき、歌う人数やグループを工夫する。

(1)指導者と児童(みんな)
児童(列)
児童(一人)など



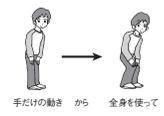
を付け、拍の流れにのって歌うために「ケーキの上きれいに並べるように歌いましょう。」など音楽的な表現力を育てるような、児童にわかりやすい動画を工夫したいものです。

●リズムを打って楽しむ

3拍子のリズムの流れを感じ取って、体の動きを工夫する。

1. ひざ打ちと手拍子をする

(1) ひざ打ちで



手だけの動き から 全身を使って

教科書1年
P.98

✓ 伴奏編

教材曲の本伴奏，簡易伴奏，ガイドピアノのほか，移調譜や鑑賞曲の参考楽譜などがまとまっています。

虫のこえ 本伴奏 教科書 P.26 簡易伴奏 P.38 / 移調譜 P.36 / 簡易伴奏・移調譜 P.39 文部省唱歌

虫のこえ 移調譜 教科書 P.26 本伴奏 P.34 / 簡易伴奏 P.38 / 簡易伴奏・移調譜 P.39 文部省唱歌

虫のこえ 簡易伴奏 教科書 P.26 本伴奏 P.34 / 移調譜

← 伴奏編 2年 P.34

← 伴奏編 2年 P.36

← 伴奏編 2年 P.38

✓ 表現 CD

表現教材指導用の CD です。曲のイメージづくりに適した範唱・範奏や，オーケストラ伴奏，ピアノ伴奏，音楽づくりの創作例などを収録しています。

※ 曲によってはオーケストラ伴奏のみ，あるいはピアノ伴奏のみの場合があります。



✓ 鑑賞 CD

鑑賞教材として最適な音源を厳選しました。教科書掲載の鑑賞教材を網羅しており，その他の参考鑑賞曲も豊富に収録しています。作品や演奏についての解説資料付き。



✓ 指導用 DVD

学習活動や教材研究の参考としてお使いいただけるように，それぞれの学習ポイントをおさえた映像を学年ごとに収録しています。曲に合わせた遊び方や体を使った表現の例，鑑賞教材の演奏風景，オーケストラの楽器紹介ほか。



✓ 学習指導計画（全学年）

年間指導計画例，主要部分とオプション部分の組み合わせの例，題材の評価規準などを全学年分掲載しています。

次のページでは教材品をご紹介します。

小学音楽 デジタル教科書

音楽のおくりもの **指導用**

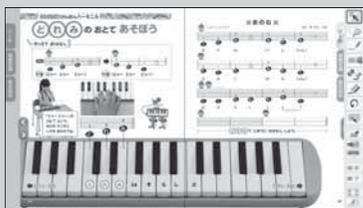
教えやすく、学びやすい授業を支援します



3つの特徴

1 教科共通で、
だれでも使いやすい
シンプルなデザイン

電子黒板での利用を考慮し、どのような立ち位置でも使いやすいデザインを実現。

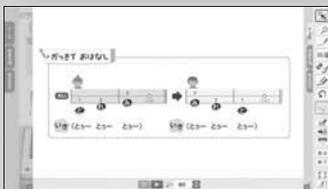
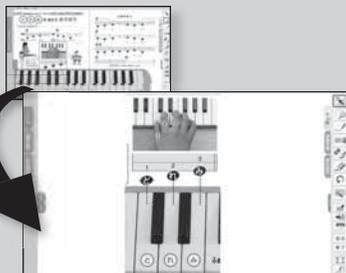


拡大・ペン機能など特によく使う機能にワンタッチでアクセス。



2 見せたいところを
自由に拡大して提示

指導ポイントに合わせて、写真や図版などをワンクリックで拡大、授業の焦点化を図ることができます。ダブルクリック拡大、範囲拡大など、指導シーンに合わせて使い分けが可能。



3 豊富なデジタル教材
で理解を深める

紙面には掲載されていない追加の写真や、教科特性に応じた動画、アニメーション、シミュレーションなど多様なコンテンツを収録。



動作環境

- 対応OS : Windows Vista, 7, 8, 8.1
- CPU/メモリ : Windows動作環境に準拠
- モニタ : 解像度1366×768ドット以上
- HDD : 1学年最大4GB
- 必須ソフトウェア : Adobe Flash Player10.1以上(最新版推奨), Adobe Reader8.0以上(最新版推奨)

第1学年～第6学年 全6巻
(学校内フリーライセンス※)

価格	全巻セット価格
各巻 60,000 円	342,000 円

(価格は税別)

※同一校内での使用に限り台数無制限でご利用いただけるライセンスです。

音楽は、学校外のサーバに本ソフトウェアをインストールし、インターネット回線等を利用して教室内のPCで再生する場合、日本音楽著作権協会(JASRAC)との契約が別途必要となります。

本広告に記載の内容、製品の仕様は予告なく変更する場合があります。

小学校音楽鑑賞用教材集

全6巻組 本体 63,000円+税 (分売不可)

教育出版の教科書に準拠したDVD教材集です。

我が国の音楽や郷土の音楽から諸外国の音楽まで、世界の様々な国の音楽を豊富に収録。

一流アーティストによる演奏や現地で収録された貴重な映像を厳選してお届けします。

すべての巻には DVD に収録された曲目の解説資料が付属しています。



第1巻 (1年・2年)

組曲「動物の謝肉祭」から「象」/そりすべり など。



第2巻 (3年)

ユモレスク/ピーターとおおかみ など。



第3巻 (4年)

トルコ行進曲/メヌエット など。



第4巻 (5年)

組曲「カレリア」から「行進曲風」/つるぎのまい など。



第5巻 (5年 日本の民謡)

こきりこ節/音戸の舟歌/谷茶前 など。



第6巻 (6年)

バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章/春の海 など。

発行：NHKエンタープライズ 販売元：教育出版

「小学音楽 音楽のおくりもの」準拠ワーク

音楽ワーク 音楽のおくりもの

小学校音楽指導用教材

定価：本体 361円+税

1年	AB判	32ページ
2年	AB判	32ページ
3年	AB判	48ページ
4年	AB判	48ページ
5年	AB判	48ページ
6年	AB判	48ページ

教育出版の教科書に準拠した音楽ワークです。

繰り返し学習によって、知識・理解の確実な定着をはかる学期まとめテストが付属しています。

教師用赤刷り、学期まとめ用CDもご用意しています。

小学校音楽教科書伴奏集 (MIDIソフト)のご案内

指導書伴奏編の本伴奏に基づいたMIDIソフトが発売されています。

詳細は各販売元へお問い合わせください。

株式会社 鈴木楽器製作所

〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-12

TEL 053-461-2325

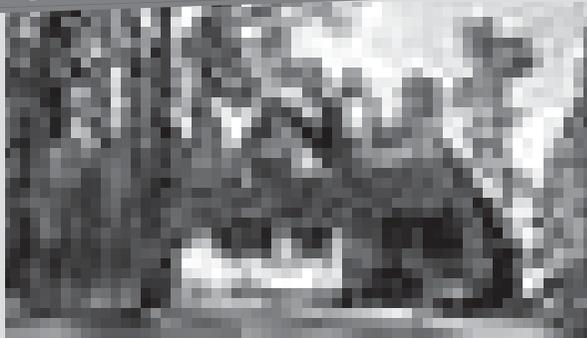
URL <http://www.suzuki-music.co.jp>

株式会社 ヤマハミュージックジャパン

商品企画部 教育・アクセサリ企画課

TEL 03-5488-1686

今号の表紙写真について



本年が生誕150年となるフィンランドの作曲家ジャン・シベリウス (1865-1957) の自邸。彼の妻であったアイノの名にちなんで「アイノラ荘」と呼ばれています。

5年生の教科書にはシベリウスの代表作のひとつ、組曲「カレリア」から「行進曲風」が掲載されています。



第13回

地球となかよしメッセージ

作品募集(2015年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2015年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
 ◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
 *協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX: 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



川が...

近所の川はきれいですか? それともきたないですか? ぼくは、京都へ帰省した時に、七谷川という川へ行きました。そこは、水がとてもきれいでどうめいでした。サワガニやヤゴ、カワヨシノボリなど、きれいな川にしかない生き物がいました。最近、トンボが少なくなってきたと聞いたことがあります。川が汚れて、ヤゴが育たないみたいです。ヤゴやカワヨシノボリ、サワガニが、住みやすいこのようなきれいな川を守りつづけたいです。

小学音楽通信 **Spire_M** [2015年 春号] 2015年3月31日 発行

©Eduardo Grund/AGE Fotostock/JTB Photo

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光
印刷: 大日本印刷株式会社 発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411